

令和2年度 ACTR

分類 番号	A3	取組 名称	「海の京都」の拠点・宮津市由良の北前船文化の総合調査と活用
研究代表者所属・職名：		文学部・准教授	氏名： 岸 泰子
研究担当者： 京都府立大学（東昇、藤本仁文、上杉和央、菱田哲郎） 外部分担者・協力者（稲穂将士、河森一浩）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 宮津市、京都府立丹後郷土資料館、由良の歴史をさぐる会、由良神社			
<b>【研究活動の要約】</b>			
<p>本研究は、「海の京都」の拠点である由良地域に残る北前船文化の遺産を総合的に調査し、海の京都の拠点として豊かな社会・文化が構成されていた由良地域の文化遺産を再発見することを目的としています。</p> <p>今年度は、由良神社を中心に文書・景観・考古学・建造物調査を実施しました。また、北前船に関する資料が所蔵される丹後郷土資料館での文書調査も行いました。また、その成果を広く周知するため、丹後郷土資料館で行われた企画展に発見した資料を出展しました。</p>			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<p>由良神社の調査において、北前船持主が神社の修理に寄付していたことがわかる資料（棟札）を発見しました。地域の拠点となっていた神社の維持に北前船が関わってきたことがわかる貴重な資料です。また、昭和期の本殿等の再建時に作成されたと思われる図面類も確認しました。神社の造営の経緯がわかる可能性があります。</p> <p>また、文書調査では、軍艦由良に関わる資料を発見しました。由良神社と軍艦由良とのつながりは知られていましたが、それがわかる一次資料の発見です。これは「京都新聞（丹後・中丹版）」（2021年2月4日）で取り上げられ、さらにネットニュースにも掲載されました。反響は大きく、全国の関係者や研究者から問い合わせがありました。</p> <p>由良地区には、由良神社を中心にさらに多くの文化遺産があります。地元でもこれらの遺産の見直しが進んでおり、今後も「発見」を続けていく予定です。</p>			
<b>【研究成果の還元】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『文化遺産学フィールド集報』7号に調査速報を掲載。</li> <li>・京都府立丹後郷土資料館企画展「ふるさとミュージアムコレクション」での資料展示（令和3年2月20日～4月4日）。</li> </ul> <p>※継続予定のため、成果報告会は令和3年度に予定。</p>			
<b>【お問い合わせ先】</b>			
<p>文学部 岸研究室 准教授 岸 泰子 Tel: 075-703-5280 E-mail: kishi@kpu.ac.jp</p>			

参考 (イメージ図、活動写真等)

